

は直射光の照射が少なく、傾斜角と土壤の排水との関連も良好で、適湿の環境にあるものと思われる。

生育地の植生

北又沢神の石付近の最も生育密度の高い地点（標高 890—930 m）で植生調査を実施したので、その概要を述べる（図 4）。階層は高木層からコケ層の 5 層からなり、出現種数は 29—38 種であった。

高木層は高さ 12—20 m、植被率は 80—90% とかなり高く、林床は常に暗く日照は少ない。サワラ、カヤ、ツガの針葉樹が優占し、それにヤマグワ、サワシバ、ケヤキ、フサザクラ、オオモミジ、ハウチワカエデ、ケアオダモ、アワブキ、ヨグソミネバリなど溪畔を構成する夏緑樹が混交している。調査地内にはモミは見られなかったが、標高 1000 m より上部では高い頻度で出現する。

亜高木層は高木層に出現した針葉樹や夏緑樹のほかに、チドリノキ、シオジ、ハクウンボク、アズキナシなどの夏緑樹が加わり、高さは 5—10 m、植被率は 30—50% である。

低木層は高さ 1.5—5 m、植被率は 30—70% である。亜高木層に出現した種類のほかに、キブシ、ヒナウチワカエデ、ヤマアジサイ、ムラサキシキブ、ツクバネウツギ、ミヤマイボタ、オヒョウ、ミヤマタタビ、ウスゲクロモジ、ヤマブキ、ミヤマハハソ、ミツバツツジ、エゴノキなどが見られる。

草本層は、高さ 0.5—0.6 m 以下で、ヤシャイノデおよびコカンスゲとミヤマカンスゲが優占する。低木層、亜高木層、高木層を構成する幼植物も多いが、ほかに出現種を上げてみると次のような草本や低木類が見られる。ミヤマクマワラビ、ウリノキ、オウレンシダ、バイカウツギ、トヨグチノデ、サルナシ、サワグサ、ヤブサンザシ、イトスゲ、サワギク、イワガラミ、コタニワタリ、ルイヨウショウマ、エンレイソウ、ヤマブキショウマ、ジュウモンジシダ、イワガネゼンマイ、ギンバイソウ、クマワラビ、ヤマブソテツ、ツルマサキ、ウラジロウコギ、ウバミソウ、フタリシズカ、タマアジサイ、マツブサ、ヤマミズ、フジ、ハリギリ、ケイワタバコなどがある。

この植生調査地点からは低木層にタマアジサイは出現していないが、他の溪畔の広葉樹の優占する林内では、タマアジサイとの結び付きが深く、ヤシャイノデの発見にはタマアジサイが目安となった。ヤシャイノデの生育地は、植生単位からは、コカンスゲーツガ群集に最も近いもので、溪畔の生育地はタマアジサイ—フサザクラ群集に相当するものと思われる。

生育地の植生については、さらに調査を重ねた上で、群落分類上の位置付けをしたいと考えている。

文 献

- Nakai, T. 1925 Critical notes of Japanese ferns, with special references to the allied species. Tokyo Bot. Mag. 39: 118.
- 田川基二 1940 台湾羊歯類の研究 植物分類地理 9: 92.
- 倉田 悟 1956 シダ類ノート (9) 北陸の植物 5: 77—80.
- 大井次三郎 1957 日本植物誌 シダ編 東京.
- 田代信二 1959 ヤシャイノデ採集詳報 日本シダの会会報 41: 4—5.
- 田川基二 1959 原色日本シダ植物図鑑 京都.
- 行方沼東 1961 シダの採集と培養 東京.
- 林弥栄ら 1961 丹沢山塊の植物調査報告 林業試験場研究報告 133.
- 中村武久 1962 南アルプスのシダ植物 (膽)
- 倉田 悟 1964 日本のイノデ類 横須賀市博物館研究報告 10: 25.
- Hara H. 1966 The flora of Eastern Himalaya. University of Tokyo Press.
- 松島信幸 1971 天竜川水系遠山川流域地質図 長野県企画部.
- 中国科学院植物研究所主編 1972 中国高等植物図鑑 第 1 冊 232.
- 大塚孝一 1975 信州の羊歯植物研究 1 長野県植物研究会誌 8: 20.
- 南信濃村 1976 南信濃村村史 1—34.
- 長野県植生図作成調査団 1976 長野県の植生図 第 4 集 長野県.
- 堤 久 1982 長野県のシダ採集ノート 長野県植物研究会誌 15: 24.
- 倉田悟・中池敏之編 日本のシダ植物図鑑 第 3 巻: 376—379 東京.

(神奈川県立博物館)

〔植物ニュース〕110 ヤエノモモ *Prunus persica* Stokes form. subsontanea (Makino) Sugimoto ノモモ (イシモモ) の八重咲品。ノモモは逸出は各地で見えるが、八重咲きは少ない。東筑摩郡四賀村会田。1986年 5 月 1 日。

(横内文人)